

(7) 深沢図書館機能・深沢学習センター機能

深沢図書館については、車いすがすれ違える書架間隔の確保、児童コーナーでは子ども自身が本を選び手に取りやすい書架の高さ、乳幼児連れでも図書館を十全に活用できる子育て支援機能等、バリアフリー化に取り組みます。子どもから静かに読書したい大人まで多様なニーズに応えるため、静読室、親子でゆっくり閲覧できるスペース、ヤングアダルト（YA）のニーズをつかみ資料提供できるスペース等、利用者層に応じた空間づくりを検討します。

深沢図書館は、地理的に本市の中心に近いことから、「子ども読書活動支援センター」機能を持つ図書館として最適な場所に位置しており、今後もこの機能を果たしていきます。小・中学校、学童保育（子どもの家）、保育園、幼稚園等への貸出しパック・貸出しセットの集積基地となり、施設まで搬送し、貸出し、回収するというアウトリーチ型のサービスを提供していくため、現在の深沢図書館の地下書庫で保管している資料のスペースを確保するほか、搬送・回収の際に自動車への積み込み作業を安全にできる作業スペースが必要です。また、中央図書館及び他の地域図書館、神奈川県立図書館との図書資料の搬送業務がスムーズにできるよう、駐車場と書庫の導線・位置関係や職員の見守り、図書資料の積み込みがしやすい・雨天時でも本が濡れない計画を検討します。さらに地震や風水害から資料と利用者を守るため、書架を床に固定したり、床から少し高い位置に本が置けるようにする等、危機管理対策も行います。図書館情報の提供やデータベース利用等については、深沢図書館内のみならず、インターネット環境におけるサービス提供についても検討します。

深沢学習センターについては、深沢学図書館と同様、バリアフリーに配慮するとともに、集会室等を整備し市民活動の場とします。ホール機能、料理実習機能、和室機能については、既存施設においてニーズが高いことに配慮し、同様の機能を踏襲することを検討します。

深沢図書館、深沢学習センター及び交流・創造機能を一体的な空間とすることで、くつろぎのスペースや飲食可能なスペース、集会・展示スペースなどの市民交流スペースを整備します。

5-4 平面計画

(1) 位置付け

配置計画 D 案、及びフロア構成イ案を基本とし、標準的な平面計画（モデルプラン）を作成しました。これらの平面計画は、本事業が建築計画として成立することを検証すること、及び施設整備費概算の根拠とすることを主な目的として作成しています。今後の設計段階で様々な提案を受けた際には柔軟に検討することとします。

図表 5-16 外部平面計画



第7章 今後の進め方

7-1 事業スケジュール

令和4年度（2022年度）の下期は基本設計等の発注準備を行い、令和5年度（2023年度）から基本設計及び（仮称）DX支援業務を実施します。令和6年度（2024年度）から令和7年度（2025年度）にかけてPFI方式又はDBO方式に関する事業者の募集及び選定を行い、令和7年度（2025年度）から令和10年度（2028年度）にかけて実施設計、施工、引っ越しを行います。実施設計、施工、引っ越し期間中には、並行して行政サービスと働き方に関するDXを推進します。

図表 7-1 事業スケジュール

